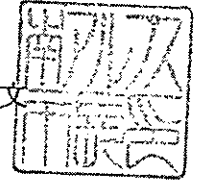


南ア道第 10－5 号

平成 20 年 10 月 21 日

国土交通省道路局長 殿

南アルプス市長 今 沢 忠 文



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け、国道企第 37 号をもって依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答します。

国民の共通する財産である道路は、人・物・情報など社会経済活動を支える最も基本的な施設であり、生活の利便性・安全性・快適性向上のために、道路の整備は大きな期待を担っている。富士山や南アルプス山系など、高い山々に囲まれた本県においては、人や物の移動の殆どを自動車交通に頼っている現状であるが、道路整備は依然として立ち遅れている。地形的に東、北、南の3箇所しか他県との接続がなく、災害時の緊急物資輸送など、中央自動車道や国道20号・52号などの幹線道路が、県民や市民のライフラインとして重要な役割を担っている。このため、その整備を望む住民の声は非常に強く、真に生活の豊かさやゆとりを実現し、活力と個性にあふれた地域づくりのため、道路整備は重要かつ喫緊の課題となっている。

本市内においては、すでに中部横断道・甲西バイパス・地域高規格道路の新山梨環状線建設が終了し、近隣においてはそれぞれ延伸の建設工事が進行中である。特に中央自動車道と接続している中部横断道は、日本海と太平洋とを接続するものであり、新山梨環状線との結節点を持つ本市にとって、関東、信越、中京地域とつながる広域的な人や物の交流拠点の誕生は、沿線地域の活性化につながるものとして、大きな期待を寄せているところである。また、静岡方面への救援ルートの確保からも、各道路の早期全線開通を待望している。

一方、市民の高齢化は本市でも進行しており、高齢者にとっても、市内の移動は自動車に頼っている現状であり、今後も高齢者ドライバーの増加が予想される。今後の道路構造は、高齢者等にとっても見やすい表示や標識、走りやすい構造など、更なる配慮が望まれる。また、鉄道がなく公共交通が不十分な本市にとっては、今後の省エネルギーや地球温暖化に対応する、環境型バス交通のための専用レーン整備等、公共交通の定時性に寄与する道路構造など、新たな仕組みの導入も求められる。

さらに、沿線の地域がこれらの道路にアクセスする市町村道の整備は立遅れており、早急な対応が望まれる。

- ・ 人や環境にやさしく、地域の実情やニーズにあった道路整備計画の策定と推進
- ・ 受益者負担という趣旨に沿った、道路建設に必要な財源の確保
- ・ 交通機能重視の構造から、地域景観に寄与し、そこに暮らす人々の生活に潤いと賑わいをもたらす機能を併せ持つ道路
- ・ 時間的距離短縮の視点を転換し、沿線の地域に立ち寄りたくなるような道路
- ・ 沿線地域の活性化に影響が大きい道路計画の適正な評価
- ・ 住民のライフラインとなる重要な道路の整備と早期開通

○ 現 状

本市観光の中心である南アルプス山岳観光や、「さくらんぼ・もも・すもも」など果樹観光の振興、また特産物の流通経路としての道路整備は特に重要である。

しかしながら、道路整備はまだ十分といえず、幹線道路から生活に密着した市道に至る道路網の整備は遅れている。

また、財政状況の厳しい中で市独自の予算で道路整備に必要な財源を確保することは非常に困難である。

今後、中部横断道の開通に伴う、物流、商業の活性化を期待するところである。このため、沿線地域に人や物を引き止める仕組みや効果的な施策の展開が必要となる。

本市の１世帯当たりの自動車保有台数は、約２．３台で、市民の自動車交通への依存度の高さを示している。したがって、道路環境の整備は、市民からの要望も多く、快適な市民生活を送るうえで、重要な施策となっている。

○ 課 題

- 中部横断道山梨県増穂町から静岡県静岡市間での早期完成および北杜市長坂町から長野県南佐久インターチェンジまでの工事着手
- 道路整備のための高効率かつ安定的な補助金の継続
- 国レベルの費用対効果の判断でなく地域の実情に即応した判断が必要である
- 県が中心となって策定を進めている、「中部横断道沿線地域活性化構想」を反映した、中部横断道の整備
- 市民の高齢化が進み、公共交通の整備が不十分な本市においては、高齢者にも走りやすい道路の整備が必要

豊かな市民生活の基盤を確立し市の将来構想である、『人と自然が響き合う新文化都市、南アルプス市』を実現するためにも道路を計画的に整備していくことが重要である。

① 市民が安心・快適に暮らせるまち

- 子供から高齢者に至るまで配慮された快適な住環境の整備充実を図る。
- 災害等の緊急時に対応できる避難・救急医療活動・支援物資輸送・延焼遮断などの機能を持つ骨格道路の配置整備の推進を図る。

② 道路ネットワークの形成により、利用しやすい円滑な自動車交通の実現

- 周辺都市や市内の各地域を有機的に結ぶ道路ネットワークの確立。
- 幹線道路を補完し、地域相互の連結道路や生活幹線道路としての補助幹線道路の充実を図る。
- 既存道路の交差点改良や道路空間改善などにより、自動車交通の円滑化と安全性の確保。

③ 広域的な交通ネットワークの一層の充実

- 国や県、周辺都市などと連携して中部横断自動車道の整備促進や自動車専用道路の広域ネットワークの促進要請とそれらへのアクセスする道路の充実に努める。
- 広域的な交通ネットワークと市内交通ネットワークの連携を図る。

④ 環境対応バスなど、省エネルギー・温暖化対策のための公共交通の整備推進

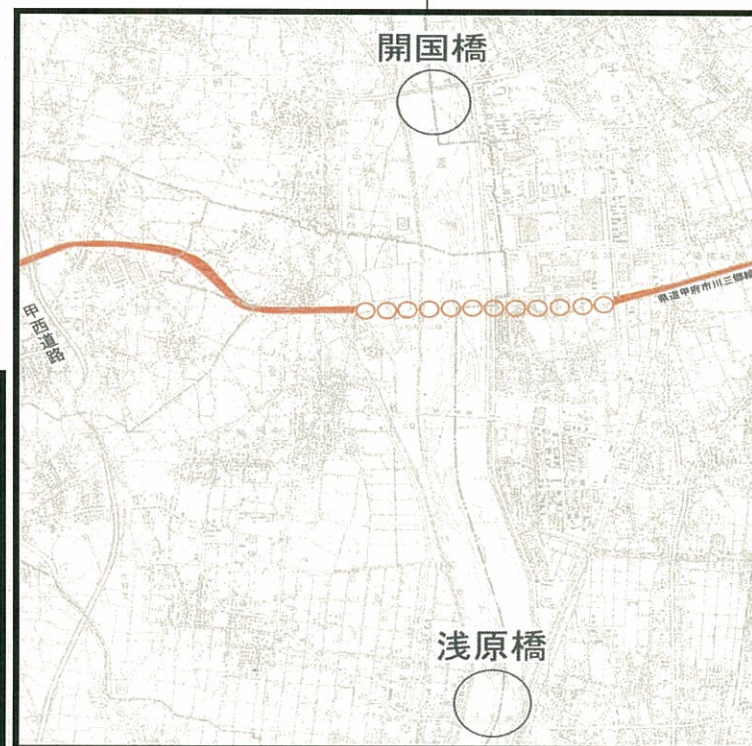
- 環境負荷の少ない、燃料電池バスなどの公共交通整備への効果的な支援策の整備

今後の道路行政についての意見・提案

③-1 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価）

山梨県 南アルプス市

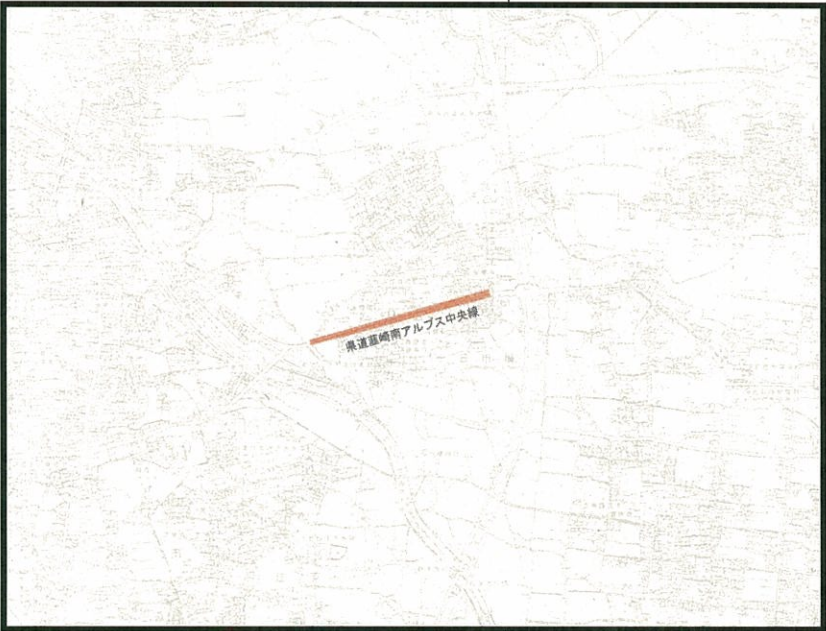
○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価	○ その他
道路ネットワークの形成により、利用しやすい円滑な自動車交通の実現	本市には軌道敷等はなく、人の移動・運搬には自動車に頼るしかない。自動車保有台数は、57,519台で1世帯当たり2.3台となる。 このような状況で、甲府市に向かう県道甲府南アルプス線の開国橋や3路線が交わる浅原橋では、朝・夕に交通渋滞が生じている。	釜無川に架かる開国橋と釜無川大橋の間に橋を建設することにより、交通の分散化を図るとともに、周辺都市や市内の各地域を有機的に結ぶ道路ネットワークが確立できる。	



今後の道路行政についての意見・提案

③－２ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価）

山梨県 南アルプス市

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価	○ その他
子供・高齢者に安全な住環境の整備	市内中心部や新たに道路整備事業を実施した路線においては、歩道設置やバリアフリー化が進められてきているが、まだ未設置区間が多く高齢者等が安心できる道路環境の整備が必要である。また、子供たちの通学の安全対策としての自転車専用レーンの設置が望まれる。	● 高齢化社会を迎え、安心・安全な町づくり ● 自転車活用によるＣＯ２削減と通学・通勤時の安全確保	市内ＰＴＡ 地域要望有り
			

今後の道路行政についての意見・提案

③－3 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価）

山梨県 南アルプス市

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価	○ その他
環境にやさしい公共交通の整備	本市には、軌道系の交通機関が無いことから、マイカー以外の交通手段は、主に民間路線バスが、地域交通を支えている。子どもや高齢者など、運転困難者の移動手段の確保や利用者の移動時の安全性の向上を図り、地球環境の保全や市街地の活性化を進め、公共交通ネットワークを充実させていくには、環境型バス交通のための専用レーンの整備が求められる。	● 環境にやさしい公共交通ネットワークの充実 ● 子どもや高齢者の危機回避 ● 安全性、速時性、快適性の向上。	
